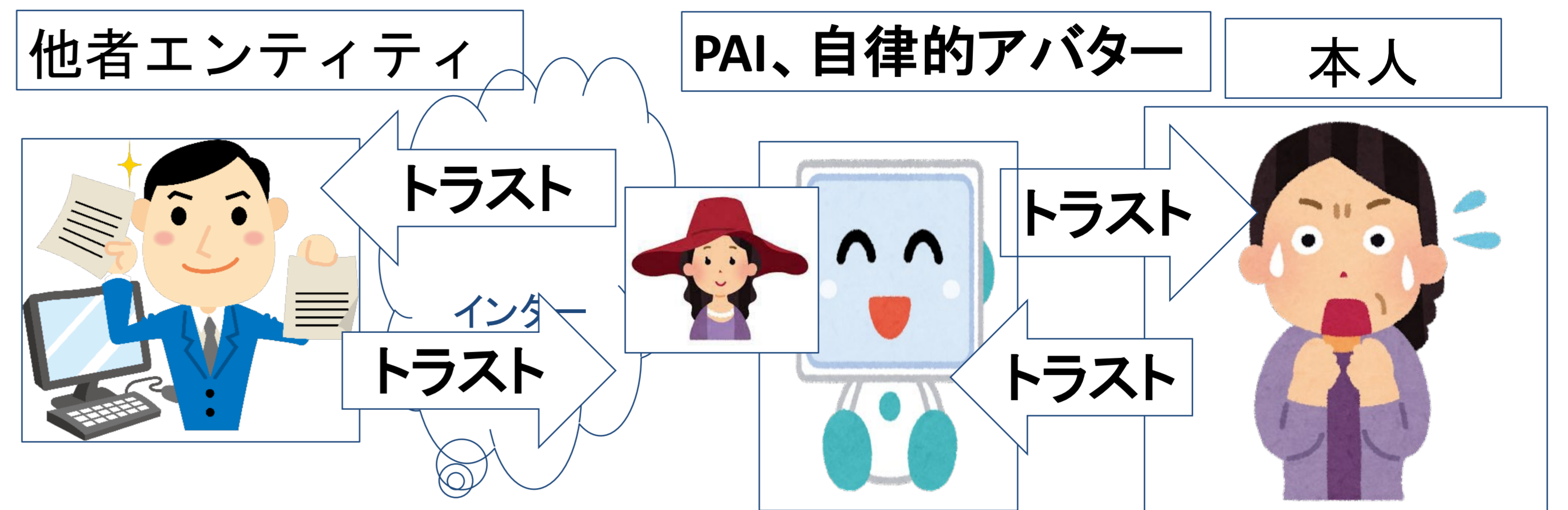
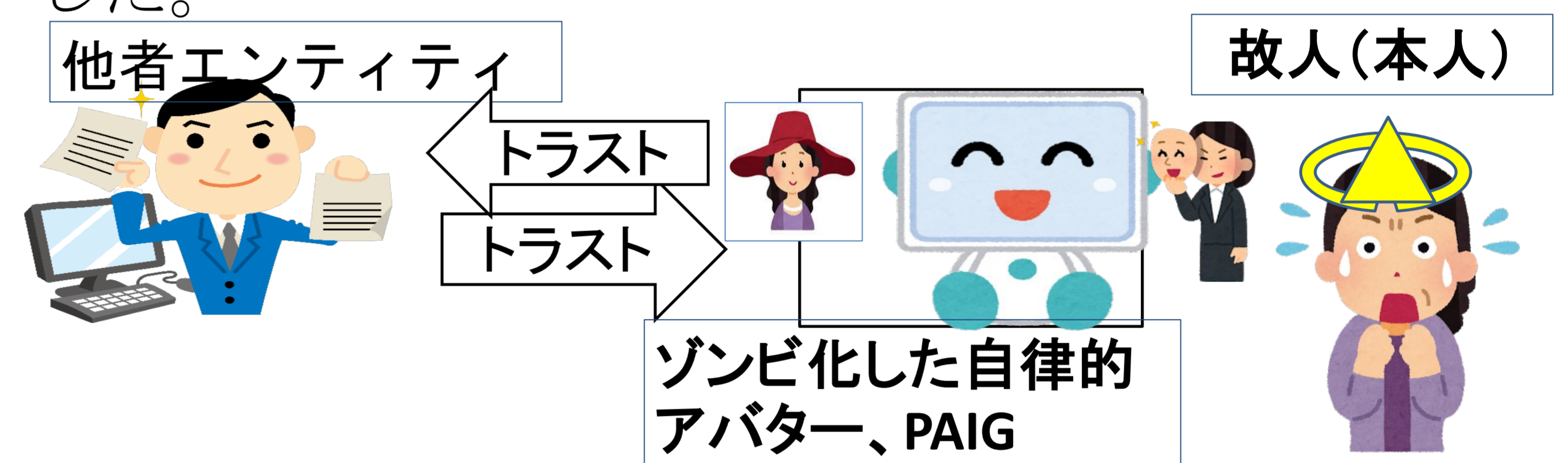


## パーソナルAIエージェント(PAIG)

- 個人の日頃の行動データ、SNS利用履歴、購買行動などを学習し、本人の代理をする個人専用のAIシステム行うPAIGについて検討した。
- 自律的アバター=PAIG+顔などの外見
- PAIGをインターネットやメタバースを介する利用では、自然人の本人、本人の代理となるPAIG、PAIGとやりとりするネットやメタバース上のエンティティがあり、これらがうまく行動するには、本人-PAIG、およびPAIG-他のエンティティの間でのトラスト形成が必須。
- トラスト形成の基礎はすでに国際標準化されているID認証のプロトコルが使える。
- しかし、BOTやマルウェアによるPAIGの乗っ取り、悪意の第三者が本人になりすましてPAIGを操作する危険性あり。(右図を参照)



- 本人の死はPAIGにとっては認識しにくい。しかし、下図のように死後、ゾンビ化したPAIGはマルウェアやなりすましで悪用されやすく、対策が必要。
- 以上のような危険性への技術的、法的対策を検討した。



## 個人情報保護と利活用の社会調査

- 人々は種々の個人情報が収集、活用される可能性をどのように感じているか社会調査した。
- 一般人1045人(回答者の年齢、性別、職業などは偏りなく調査)
- 匿名加工情報への賛否、第3者提供への賛否を調べた結果のクロス集計を下の表に示す。

- 自分の医療情報の医学研究、創薬への利用の拒否は各々、156人、131人。
- 公共の場所や公共交通機関に設置されている顔認識できるビデオカメラを設置、拒否573人 許容472人。
- しかし、自分との利害関係で質問すると下記のような結果となった。

		第3者提供			
		元データ OK	仮名化 OK	4情報削除 OK	第3者移転拒否
匿名加工情報	行の計\列の計	27人	159人	383人	476人
	A) 匿名加工情報制度反対	285人	4人	4人	53人
	B) 社会有益OK	395人	15人	107人	184人
	C) 企業有益OK	73人	4人	27人	22人
	D) If 被害なし OK	380人	6人	49人	170人

コアな拒否派

ビデオカメラで撮られた顔画像は直後に廃棄なら許容する	255人 (24.4%) 女性136人、男性119人
ビデオカメラで撮られた顔画像がカメラ設置者が集中管理するサーバに送られデータベース化されても、駅内暴力や痴漢行為の抑止に効果があるなら許容する	369人 (35.3%) 女性190人、男性179人
直上の条件に加えて、人々の通勤経路の調査などで使われるとしても、許容する	153人 (14.6%) 女性76人、男性77人
何があっても許容しない	268人 (25.6%) うち女性118人、男性150人

コアな拒否派

## 対話システムの設計における責任の検討

- 対話システムの行為者性を虚構的真理として理解する枠組みに基づき、設計者の負うべき道徳的責任の内実を哲学的観点から明らかにした。
- 設計者が全ての「遊び」に責任を負うことは困難
- 対話システムの場合、プログラム単体ではなく、それを媒介にした「遊び」の倫理的影響が重要
- 遊び(=ユーザの想像的活動)を評価するために、工学的スタイル(量的、ユーザ個人性を排除、作り手の意図実現を重視)ではなく、文学や玩具などの評価実践のスタイルを取り入れることが可能

## ファッション研究と技術哲学の架橋

- 技術と一体化しつつあるファッション実践を研究する際に技術哲学からどのような示唆が得られるのかを明らかにした。
- 1. ファッション自体の技術化、2. 衣服の実践と技術の使用の類似、3. 分析枠組みとして両者がポストヒューマニズムに接近している、という3点について、技術哲学の議論の蓄積が使えることを具体例を通じて示した
- 特にポストヒューマニズムについては、技術哲学と同様、必ずしも必要な枠組みではない